

## 3 飯田五郎家義コース（約4.6km）

～ 下飯田 古道の風情が残る地へ～

飯田五郎家義は、下飯田本郷を拠点に、この地域を開発し、飯田郷の地頭になったといわれています。こここの「鎌倉道（藤沢八王子道）」沿いには、曹洞宗の古刹東泉寺や飯田のこんぴら様として人々に親しまれた琴平神社、飯田五郎家義の館跡といわれている富士塚公園、左馬神社、相模の俳壇の中心的人物美濃口春鴻の生家美濃口家があり、古道の風情を今に残しています。一方、環状4号線沿いの地域は、市営地下鉄「下飯田駅」と相鉄いずみ野線「ゆめが丘駅」周辺の区画整理事業の進展により、新しいまちとして生まれ変わろうとしています。

### 1 三柱神社



この神社は、上飯田下組（現、上飯田南町）の地域内にあった三つの神社を大正元年（1912）に、移転合祀したものです。その三柱とは、菅原道真を祀る天神社、大山咋命を祀る日枝神社、豊受媛命を祀る神明社です。境内には庚申塔3基と蚕霊供養塔があります。庚申塔のうち文久元年（1861）造立のものは、大山道標を兼ねています。

### 2 蚕霊供養塔



三柱神社に「蚕霊神鎮座」と刻まれた碑が立っています。上飯田下組（現、上飯田南町）の地域の養蚕農家が建てた供養塔です。明治・大正・昭和初期、泉区域の村々では養蚕が盛んに行われ、農家の経済を支える大切な産業でした。同じ供養塔がJ A横浜和泉支店横の神明社前にも立っています。

### 3 鎌倉道・美濃口家



飯田の鎌倉道は「上（西）之道」と呼ばれ、新田・足利ゆかりの地や信濃方面と鎌倉を結ぶ重要な道でした。美濃口家は代々名主や村長を勤め、当家出身の春鴻は芭蕉の流れを汲む蕉門の俳人で、関係資料は横浜市地域有形文化財（歴史資料）になっています。（一般の家屋のため、門の中の見学はできません。）また、近くに持田・美濃口両家の氏神と伝えられる日枝社があります。

### 4 下飯田左馬神社



境川沿いに多く見られるサバ神社の神社です。祭神は左馬頭源義朝で、平安末期に飯田五郎家義が勧請したとも、小田原北条時代に領主川上藤兵衛が勧請したとも言われています。天正18年（1590）に領主となった筑前守助兵衛為春は地域の鎮守さまとして信仰し、社殿を修復しました。境内のイチョウは市指定の名木古木です。他に堅牢地神塔・庚申塔などがあります。

### 5 梨（小菅家）



市内各地で生産される梨は、「浜なし」として定着していますが、中でもこの小菅家はその草分け的存在と言われています。昭和16年（1941）から試みを開始し、「長十郎」「菊水」「旭」などの品種の改良を進め、昭和40年（1965）代からは「新水」「幸水」「豊水」の三水と呼ばれる品種を中心に生産し、現在に至っています。

### 6 富士塚公園



富士塚団地内に「富士塚城址」の石碑のある公園があります。この辺りは、源頼朝の危機を救った飯田五郎家義の館があったところと言われています。造成前には空堀の跡と思われる窪地やそれらしき地名も残っていました。また明治32年（1899）には五輪塔や納骨瓶が出土しました。当地の人々は、飯田氏の墳墓であろうと考え、近くに「古賢大菩薩」の碑を建て供養しました。

### 7 琴平神社



水難除け治水の守護神を祀った琴平神社は、江戸期には東泉寺が別当を務め、飯田の金毘羅様として親しまれてきました。明治2年（1869）の神仏分離令によって、大物主神と崇徳天皇を祭神とする琴平神社として独立しています。境内には天満宮、八坂神社などが祀られています。

### 8 東泉寺



以前は境川沿いにありましたが、度重なる水害で、天正18年（1590）頃、当地の領主旗本寛為が春によって移転されたと伝えられています。曹洞宗で鎌倉龍宝寺の末寺。山号を巨木山と称し、山門前の大イチョウは市の名木古木に指定されています。また、境内の薬師堂には飯田五郎家義の守本尊と伝えられる薬師如来像のほか、相模国準四国八十八ヶ所五十九番札所の弘法大師石像が安置されています。

### 9 みなみコミュニティハウス



この地は富士山、大山丹沢方面の眺めのよい場所で、先土器時代の石器が発掘されています。中和南小学校は、中和小学校の南分教場として親しまれてきましたが、昭和43年に独立しました。校内にある、みなみコミュニティハウスの郷土資料室には、古民具や歴史資料が数多く展示され、地域の文化交流の拠点となっています。

### 1 宮澤家の防風垣



現在は和泉川の西側に相鉄いずみ野線の高架線路があり、周辺の住宅も緩衝物になっていますが、開発前の和泉川沿いは水田が下流まで続いており、環状4号線方面からの西風も強かったはずですが、屋敷の防風垣としていつ頃この「もちの木」が植えられたのか、当主の宮澤弘氏も不明と言います。樹勢から2～300年は経っているでしょう。

### 2 長福寺・須賀神社



臨済宗天王山長福寺は、円覚寺末で本尊は釈迦牟尼仏です。泉次郎親衛が道場として創建したと伝えられています。泉次郎は、二代將軍源頼家の遺児千寿丸を擁して北条氏を打倒しようとしたが、その計画が事前に発覚し、逃亡したと伝えられています。隣の須賀神社は小次郎が鎮守神として祀った神社といわれています。

### 3 板碑



長福寺の境内に南北朝期の年代（1300年代）が記された板碑が立っています。泉中央公園を整備したとき、池のほとりから出土したものです。板碑は、石塔婆（※）の一種で、死者の追善（※）及び生前の逆修（※）供養の塔で、本興寺墓地・無量寺・密蔵院・東泉寺の宝物殿（非公開）などに多くあります。板碑は、泉区域の石造物では、最も古いものです。  
（※）石塔婆（せきとうば）：石で作った供養塔  
追善（ついぜん）：亡くなった人の冥福を祈ること。  
逆修（ぎゃくしゅう）：生前にあらかじめ自分のために死後の冥福を祈ること。



# 4 泉小次郎親衛・殿墓・天王森コース（約6.7km）

## ～和泉川南部 水と緑の大パノラマと公園めぐり～

相鉄いずみ野線いずみ中央駅から和泉川沿いに南下すると、鎌倉時代の武将泉小次郎親衛伝承地の泉中央公園や、長福寺があります。ここからまた和泉川に沿って下ると、江戸期の和泉村の領主松平家の祈願所中之宮左馬神社、菩提寺宝心寺の殿墓で知られる松平家代々の墓、童心にかえて遊べる親水公園、密蔵院、下和泉鯖神社、明治から昭和初期にかけて栄えた製糸場の遺構がある天王森泉公園などがあります。この川沿いの道は、私たちの先祖の歴史を訪ねる道であり、境川遊水地公園などで、野鳥や草花が見られる水と緑の散歩道です。

### 4 泉中央公園



昭和61年秋、泉区誕生と同時に開園し、再整備により平成28年3月に再オープンしました。この地は鎌倉時代の武将泉小次郎親衛の館跡と伝えられています。遺構として、東側と南側に空堀と土塁が残っています。「小次郎馬洗いの池」は一年中湧き水が枯れたことがなく、昔は池の水を汲み干して雨乞いの願いをかけました。園内には、空充秋作の彫刻「門」があります。

### 5 中之宮左馬神社



祭神は左馬頭源満仲・天照皇大神で、中和泉地域の鎮守さまで。和泉川沿いに見られるサバ神社の一社で、源家隆盛の頃の勧請といわれています。寛永2年(1625)、和泉村の領主となった松平勝左衛門昌吉は、この神社を村の鎮守として再興し、能見松平家の累代の祈願所としました。総けやき造りの本殿は立派です。境内には木食観正碑・庚申塔・西南の役の忠魂碑などがあります。

### 6 宝心寺



和泉山松雲院と号し、本尊は阿弥陀仏です。もとは、泉小次郎親衛が菩提寺として建立した泉龍寺といわれ、子孫が絶え荒廃していたのを、慶安4年(1651)に領主の松平勝左衛門昌吉が浄土宗の寺として建立し、宝心寺としました。境内には和泉廻化地藏尊と岩舟地藏尊や庚申塔があり、参道入口には車塔が建っています。他に市指定の名木古木が立ち並んでいます。

### 7 松平家墓



宝心寺本堂裏の墓地内に「殿墓」と呼ばれる徳川時代の和泉村領主であった松平家の墓所があります。松平勝左衛門昌吉は能見松平家の6代目で、寛永2年(1625)、和泉村の領地を得て、慶安4年(1651)に三河国額田郡能見の観音寺から、父5代目庄右衛門昌利の墓を宝心寺に移し墓所としました。現在、墓所には6代目から15代目までの笠付角柱塔と宝篋印塔が立ち並んでいます。

### 8 和泉川親水広場



草木橋から関島橋の区間に、河川と一体化した広場として整備されています。和泉川を見ながら子供達も楽しく遊べる憩いの場所です。散策はもちろん、川に親しむ場所としてもおすすめです。昭和63年度には、「手づくり郷土賞」(国土交通省)に選ばれました。

### 9 四ツ谷の石仏



和泉川に架かる草木橋をわたると田園風景が広がります。近くに平安時代の住居址を中心とする草木遺跡があります。その先の三叉路に、一群の石仏が並べられています。宝篋印塔残欠(年代不明)、道祖神塔(明治3年・1870)、地藏庚申塔(寛文10年・1670)、出羽三山供養塔(文化2年・1805)、石祠(年代不明)などが見られます。

### 10 密蔵院



高野山真言宗で、開山は祐海法印(天文14年・1545年寂)、本尊は願行作とされる不動明王です。境内には貞和3年(1347)の板碑があり、石段下には文政4年(1821)建立の木食観正碑があります。ハクモクレンは有名で、3月彼岸の開花時には多くの参詣者の目を楽しませてくれています。環状4号線の道路工事により寺の所有地が広く提供されたため、境内や寺域の環境が大きく変わりました。

### 11 下和泉鯖神社



和泉川沿いに見られるサバ神社の一社です。祭神は左馬頭源満仲。慶長年間(1596～1615)、当地の郷土清水・鈴木両氏が氏神として勧請したといわれています。元禄2年(1689)に氏子の寄進による社殿修復の棟札(※)が残されています。神社のすぐ下あたりに、かつての清水製糸場があり、この工場で使用していた本館は、天王森泉公園に移築され、天王森泉館として使用されています。

(※) 棟札(むなふだ)：棟上げの時、工事の由緒、建築の年月日、建築者または工匠の名などを記して、棟木に打ち付ける札。多くは頭部が山形をしている。

### 12 天王森泉館・天王森泉公園



平成9年11月に開園し、天王森泉館を中心に昔ながらの原風景を残した緑豊かな、そしてホタルやワサビを育む豊富な湧き水のある公園です。天王森泉館は旧清水製糸場本館です。明治期に建てられた市内に残る唯一の製糸関連の遺構で、和泉・飯田・阿久和地区が一大製糸産業地であったことを偲ばせます。平成10年1月、横浜市認定歴史的建造物に選ばれました。

### 13 境川遊水地公園



境川遊水地公園は、泉区、戸塚区、藤沢市に位置し、境川の洪水被害を軽減させるための遊水地を平常時には公園として利用しています。野球・テニスなどのスポーツのほか、様々な生物の観察や水辺の風景を楽しむことができます。園内の情報センターでは、遊水地の仕組みやここで観察できる生物の紹介、発掘された貝化石などの展示がされています。また鷺舞橋は全長129mの片面吊り構造という珍しい吊り橋です。





### 3 飯田五郎家義コース

地図  のルート

～ 下飯田 古道の風情が残る地へ～

- スタート  
**いずみ中央駅** - ①三柱神社 - ②蚕霊供養塔 -  
 ③鎌倉道・美濃口家 - ④下飯田左馬神社 - ⑤梨 -  
 ⑥富士塚公園 - ⑦琴平神社 - ⑧東泉寺 -  
 ⑨みなみコミュニティハウス - 下飯田駅 - **ゆめが丘駅**  
 ゴール



泉区に伝わる  
昔ばなし

#### キツネにだまされたお嫁さん (3コース)

大正時代のころ、和泉に嫁いできたばかりのお嫁さんが、飯田南町のお宅へ、お砂糖を届けに出かけました。中和泉の左馬神社を過ぎて、集会所(三柱神社)のあたりから、いくら歩いても、目指す家が見つかりません。どこにいるのかもわからなくなってしまい、通りかかった人に案内してもらって、ようやく目的の家につきました。包みは切れていましたが、お砂糖は無事でした。すっかり日がくれ、山の方でちょうちんの火がいくつもついたり消えたりしているのを見て、お嫁さんは、キツネにだまされたのかと感じ怖くなったということです。 - 「中和郷土誌」 -

#### 東泉寺の薬師如来 (3コース)

むかし、鎌倉に幕府ができた頃の飯田に、武士の飯田五郎家義がいました。家義は下飯田左馬神社近くにお堂を建て、鎌倉の永福寺の薬師如来像を迎え、守り本尊としました。このお堂は、江戸時代に下飯田の領主、寛助兵衛為春によって東泉寺に移されました。明治の頃、盗賊が薬師如来像を盗みましたが、仏罰を恐れて、藤沢山の谷に捨ててしまいました。数日後、近くを通った村人が、草むらで光る薬師様を発見して、無事に戻ったということです。この像は空海上人(弘法大師)の作といわれ、眼病、安産、育児などにご利益があるとされています。 - 「中和郷土誌」ほか -

#### まんぢやらばばあ (4コース)

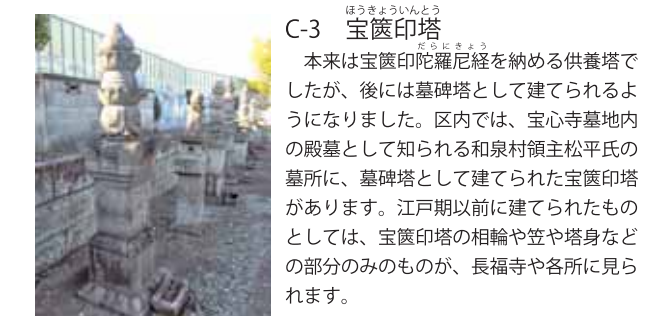
むかし、天王森泉公園の近くに、「どうじょうじ」というお寺があったそうです。ある年大地震があり、山が崩れて、お寺の鐘が谷戸に埋まってしまったそうです。その後、雨乞いでこの谷戸を掘り、鐘が見えると、大雨が降って埋まってしまうとされていました。明治後期頃からの雨乞いは、そばの「弁天様」の池で行ったそうです。また、「どうじょうじ」におばあさんがいて、風が吹いたり、何かあると、「まんぢやら、まんぢやら」と祈っていたので、天王森泉公園の付近は「まんぢやらばばあ」とも呼ばれたということです。 - 「中和郷土誌」 -

### 4 泉小次郎親衛・殿墓・天王森コース

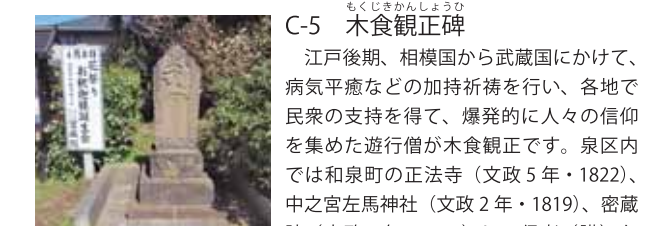
地図  のルート

～ 和泉川南部 水と緑の大パノラマと公園めぐり～

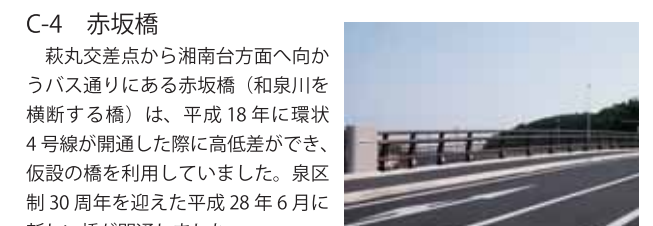
- スタート  
**いずみ中央駅** - ①宮澤家の防風垣 - ②長福寺・須賀神社 -  
 ③板碑 - ④泉中央公園 - ⑤中之宮左馬神社 -  
 ⑥宝心寺 - ⑦松平家墓 - ⑧和泉川親水広場 - 草木橋 -  
 ⑨四ツ谷の石仏 - ⑩密蔵院 - ⑪下和泉鯖神社 -  
 ⑫天王森泉館・天王森泉公園 - ⑬境川遊水地公園 -  
 今飯橋 - 白鷺橋 - 富士塚公園 - 下飯田駅 - **ゆめが丘駅**  
 ゴール



C-3 宝篋印塔  
 本来は宝篋印陀羅尼経を納める供養塔でしたが、後には墓碑塔として建てられるようになりました。区内では、宝心寺墓地内の殿墓として知られる和泉村領主松平氏の墓所に、墓碑塔として建てられた宝篋印塔があります。江戸期以前に建てられたものとしては、宝篋印塔の相輪や笠や塔身などの部分のみのものが、長福寺や各所に見られます。



C-5 木食観正碑  
 江戸後期、相模国から武蔵国にかけて、病氣平癒などの加持祈禱を行い、各地で民衆の支持を得て、爆発的に人々の信仰を集めた遊行僧が木食観正です。泉区内では和泉町の正法寺(文政5年・1822)、中之宮左馬神社(文政2年・1819)、密蔵院(文政4年・1821)に、信者(講)たちにより造立された木食観正碑があります。この碑から、木食観正は文政元年(1818)に小田原で活動を始め、2・3年後には、泉区域でも信仰が始まったと思われます。



C-4 赤坂橋  
 萩丸交差点から湘南台方面へ向かうバス通りにある赤坂橋(和泉川を横断する橋)は、平成18年に環状4号線が開通した際に高低差がで、仮設の橋を利用していました。泉区制30周年を迎えた平成28年6月に新しい橋が開通しました。



泉区に伝わる  
昔ばなし

馬洗いの池 (4コース)  
 泉中央公園の中に四季を通じて涸れることのない池があります。古くから農家の人々は雨乞いの池として、神官や僧侶によるお清めのあと、水を汲み出し池を干して、降雨を願うという風習があったということです。この公園のある付近は、泉小次郎親衛の陣屋跡という言い伝えがあって、池は親衛が馬を洗ったところと言われ、「馬洗いの池」と呼ばれています。現在の池は公園の工事をした際に、原型を残すように周囲を石積みしています。この辺りには他にも、長福寺、須賀神社、神明社、瀧の前不動尊など親衛ゆかりとされるものが多数あります。 - 「ふるさと泉再発見 私たちの泉区」 -

